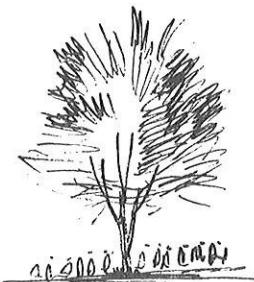
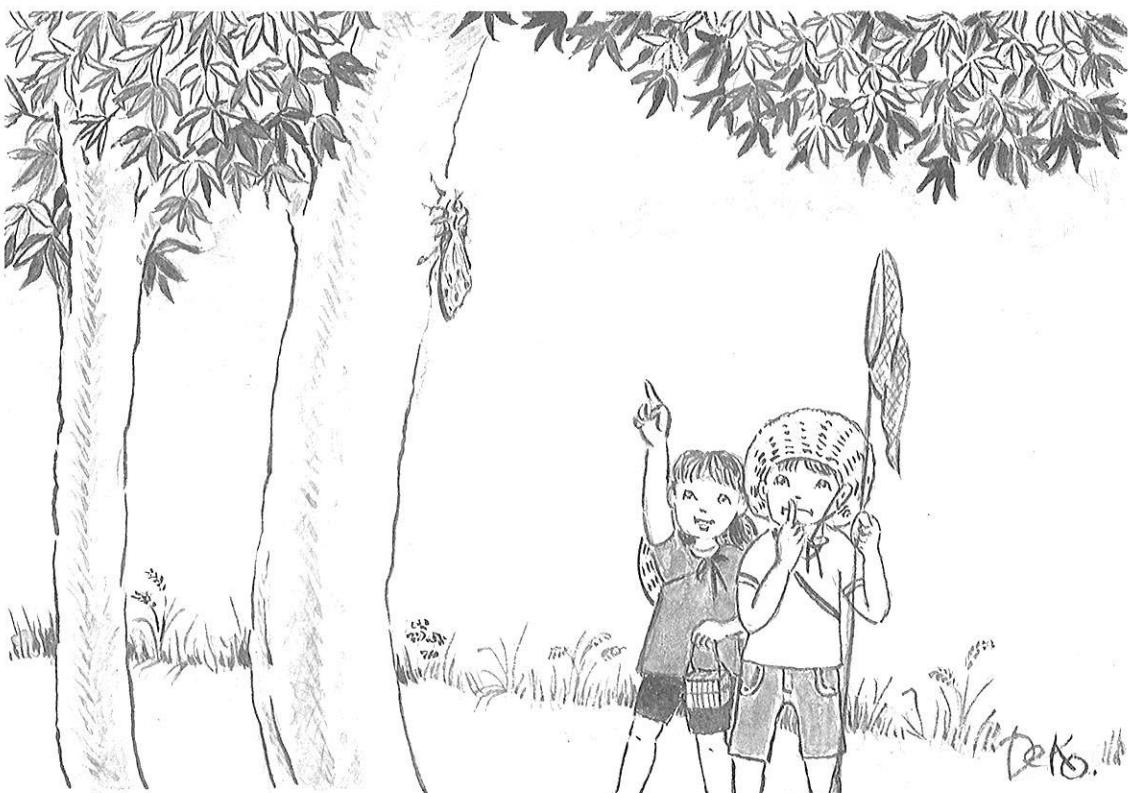


光の子



No.143 2010.7.10

●年間聖句 友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。
(ヨハネによる福音書15章13節)



「あそこに、いるよ」

挿絵・中島英子

象の背

象の背に青空乾く子どもの日

父の日や線画の父の幼な顔

膝小僧揃へて金魚掬ひかな

虎に吠え檻を離るる夏帽子

尺蠖や今朝もあの子はおねしょして

面会の母に寄らぬ子行々子

出目金や次の悪戯はじめたる

鎌田 洋子
(句集「絵筆」より)

「共育ちカンガルー日記」 (8) ママの休日

近藤 みちる

自分の誕生日が来るのが嬉しくなったのは、いくつの頃からだろうか。最近はプレゼントを貰うことないで、自分の誕生日に気付かず過ぎてしまうことが多くなった。ところが今年は、思いがけない素敵なもので、自分の誕生日に気付かれて過ぎすといよ」照れくさそうに夫が言つてくれたのだ。

思えば二十四時間、三百六十五日、明けても暮れてもどっぷりと子育てに没かりきつた生活だ。いつもくたくたに疲れていて、自分のことなんてそっちのけの日々である。「たまにはゆつくり味わつて食事がしたい」「のんびりお風呂に入りたい」「晩でいいから手足を伸ばしてぐつすり眠りたい」独り言のよう

元気な人でもちよつと大変な感じである。ましてや、大手術のあとである。ところが、二人の奥さんが一週間ほど、付き添つている私の分も含めて、毎日、日本食の差し入れをしてくれたのである。二人はお互に面

近藤 みちる

お母さんに『ママの休日』をプレゼントを贈られた。

「頑張ってくれている我が家のお母さんには誕生日プレゼントを贈られた。

私のぼやきを、夫はちゃんと聞いてくれたのだ。ちゃんと見えていたのが、それが何より嬉しかった。そのことが何より嬉しくなった。夫は久しぶりに仲の良い友人と外食をする約束をしていた。美容院でヘアカタログをめくりながら、思いきつたが、結局は一番手入れの楽なショートヘアにしてもらつた。先延ばしにしていて半年ぶりに来た美容院で時間を潰すことになった。美容院を済ませても、友人と約束の時間までにはまだ間があると、それだけで気持ちが軽やかになつた。私は近くのショッピングモールで時間潰すことにした。

足の向くまま気の向くまま、ウインドウショッピングを楽しんだ。いたずら娘を連れてはとても入れないような雑貨屋を覗いたり、婦人服売り場でどつかえひつかえ試着をしてみたり、喫茶店で一息ついたり。なんという解放感だろう。こんなに気ままに外出を楽しんだのは、子供が生まれてから初めてのことだった。

久しぶりにおしゃれな洋服でも買おうと思つていたが、結局Tシャツを一枚ほど購入した。ママには、家で洗えてアイロンもいらない服が一

友人も大学生と高校生の娘を持つ二児の母。娘たちは最近デートやバイトに忙しくて、休日はほとんど家にいないと言う。「子供は三歳までに親に恩返しするって言うけど本當ね。甘えてもらえるうちに、目一杯予供漬けになつて楽しんでおいてね。」彼女はしみじみと言つた。コースの最後に出たデザートは、娘の大好物の苺のケーキだつた。いつか娘にも好きな人が出来て、私のことをうつとうしく思う日が来るのだろうか。そんなことを考えながらついた苺のケーキは、甘酸っぱくて何だか切ない味がした。

食事を終えて店を出ると、私たちは家族の待つそれぞれの場所を目指して帰路についた。ワインで少し熱づいた頬を初夏の夜風がひんやりと撫でていく。久しぶりに履いたミュ

明易のいつもどこかに子の手足みちる

「続・妻の受傷」

仙道 富士郎

ただいつまでも忘れることができないのは、そのときに受けた人の情けである。入院した病院は「アドベンティス」いうキリスト教の一派が経営する病院で、入院食もベジタリアンフレードなのである。初回は大豆蛋白のハンバーグも元気な人でもちよつと大変な感じである。ましてや、大手術のあとである。ところが、二人の奥さんが一週間ほど、付き添つている私の分も含めて、毎日、日本食の差し入れをしてくれたのである。二人はお互に面

JICAシニア海外ボランティアで、手術を受けた妻の右足は、丸太んぽうのようにながれ上がり、皮下出血もただものでない。後に来日した担当の日系整形外科医の後日談では、その時は正直心配したといふ。山形の料亭に彼を招待したのだが、妻が車いすに座つていたのだが、どうしようと考えながら部屋に入ってきたのだという。

JICAの方々にも大変親切にしていただいた。大きな在外JICA事務所には看護師か保健師が健康管理員として働いている。赴任したばかりの方だったが、ほとんどの時間が妻のお世話のために使わせてしまつたようだ。彼女の計らいで、決まった任期よりも少し早く帰国することができた。術後一ヵ月と少ししか経つていなかつた

料金覚悟でパラグアイ空港に行つたのだが、なんなく通過して「ラッキー」と二人で喜んだのだが、実はどんなアントラッキーだつたのである。運悪しく、ちょうど飛行機爆破テロ未遂事件に鉢合ってきたのだといふ。

JICAの方々にも大変親切にしていただいた。大きな在外JICA事務所には看護師か保健師が健康管理員として働いている。赴任したばかりの方だったが、ほとんどの時間が妻のお世話のために使わせてしまつたようだ。彼女の計らいで、決まった任期よりも少し早く帰国することができた。術後一ヵ月と少ししか経つていなかつた

料金覚悟でパラグアイ空港に行つたのだが、なんなく通過して「ラッキー」と二人で喜んだのだが、実はどんなアントラッキーだつたのである。運悪しく、ちょうど飛行機爆破テロ未遂事件に鉢合ってきたのだといふ。

料金覚悟でパラグアイ空港に行つたのだが、なんなく通過して「ラッキー」と二人で喜んだのだが、実はどんなアントラッキーだつたのである。運悪しく、ちょうど飛行機爆破テロ未遂事件に鉢合ってきたのだといふ。

せめてもの罪滅ぼしにと、週二回のリハビリに通う運動手を務め、一時間ほどかかるリハビリ中は、病院の待合室で本を読みながら待機するといった生活が、ここどころ続いている。でも、罪滅ぼしと言えば、それは長い、長い間彼女にかけて来た苦労に対するものもあるよう気がしている。

せめてもの罪滅ぼしにと、週二回のリハビリに通う運動手を務め、一時間ほどかかるリハビリ中は、病院の待合室で本を読みながら待機するといった生活が、ここどころ続いている。でも、罪滅ぼしと言えば、それは長い、長い間彼女にかけて来た苦労に対するものもあるよう気がしている。

せめてもの罪滅ぼしにと、週二回のリハビリに通う運動手を務め、一時間ほどかかるリハビリ中は、病院の待合室で本を読みながら待機するといった生活が、ここどころ続いている。でも、罪滅ぼしと言えば、それは長い、長い間彼女にかけて来た苦労に対するものもあるよう気がしている。

せめてもの罪滅ぼしにと、週二回のリハビリに通う運動手を務め、一時間ほどかかるリハビリ中は、病院の待合室で本を読みながら待機するといった生活が、ここどころ続いている。でも、罪滅ぼしと言えば、それは長い、長い間彼女にかけて来た苦労に対するものもあるよう気がしている。



季節のおとずれ

竹花家

毎朝のランニングを欠かさないアスリート系小六女子、美也子のお話をご紹介します。

六月には毎年地域の陸上大会があり、今年も選手の座を勝ち取った美也子は、実は今年の本番に向けて去年の夏から地道に体をつくりました。毎晩の筋力トレーニングは腕立て、腹筋、背筋に加え、体幹トレーニングと速く走るための上半身をつくり、毎朝のランニングに加えて学校での朝マラソンで長く走るための心肺機能を高め、風呂では筋肉を揉みほぐし、体調を崩さないように早寝早起き。誰に言われた訳ではないこれらの日課は、彼女にとて全く苦になつてない様子。

思えば美也子は、走ることに関しては幼稚園からずっと殆ど負けを知りません。「わたしは速い」という自信が、今の彼女を創り上げてきたのだろうと思います。

もう一つ、彼女を創り上げてきた重要な要素「漫画」。少年漫画

河のほとりで

倉澤家

「ナルト」の大ファンである彼女の漫画に対する真剣な態度、集中力を見て、周りの人が自分が通ってきた至極の漫画を彼女に読ませ、彼女が漫画の深みに嵌つてい

く毎日を経て、今では立派な漫画オタクに・・・。そんな漫画の中に出でくる色々なキャラクターの影響もあって、一つの事に真剣に向き合うことに格好良さを感じられる感性が育つたのかなと思うこともあります。

今年の陸上大会の結果は・・・五位と振るわなかたのですが、美也子は走ることを諦めていません。高みを目指してトレーニングを続けるそうです。目標は体育大学入学。次世代のオタク系アスリートを目指して頑張ってほしいと思います。

鈴木 洋一



の家族から様々なエピソードを繰り返し聞かされる中で、「自分は愛されて育つた」ということを実感できるようになるそうです。で

その中で彼女から、自分は担当さんに愛された経験が無い・・・という言葉を聞き、唖然としました。私は反射的に「何を言つてゐるか、少なくとも一番初めの担当さんは、あなたのことを溺愛してたよ。あなたが何で今そう思うのか、私はサッパリ分からぬ！」と

声を大にして彼女に伝えました。私は、あなたのことと溺愛してたよ。あなたが何で今そう思うのか、私はサッパリ分からぬ！」と同席していた卒園生も「えー、小さいとき超かわいがられてたよ。あなたとケンカすると理由も聞かないで私が怒られてたもの・・・」と、やはり私と同様の思いがあつたようでした。

しかしこの話を聞いても彼女は「えっそうなの？覚えてない・・・」と言うのです。この話を、大先輩の臨床心理士に伝えると、彼女がそう思うのも当然だらうということでした。家庭で育てられた子どもは、小さい頃の写真を見たり、両親やその他

担当者で居続けることの大切さと、愛された記憶を消さない為の作業の重要さを感じた出来事です。園生たちが皆、彼女と同じ思いでいるかも知れないと思うと、心が痛みます。私たちも、何人もの卒園生を社会に送り出しました。その卒園生たちが皆、彼女と同じ思いでいるかも知れないと思うと、心があると言うのです。

倉澤 智子



季節のおとずれ

佐藤家

子どもたちの季節

仙道家

暑さも厳しくなつてきましたが、みなさいかがお過ごしでしょうか。

仙道家には新しいメンバーがや

つてきました。今年四歳、三歳、二歳になる子どもたちで、私が担当させていただきました。四歳の詩音ちゃん、三歳の真理ちゃん、二歳の穂高くんです。入所前に事前面接を繰り返していました。そこで、私は大分慣れてきましたがまだ緊張しながら生活しています。

詩音ちゃんは入所ってきてすぐ打ち解け、誰にでも抱っこされてしまふといつた、人間関係の濃淡に乏しい状況でしたが、自分で次第にぐずりが見られ、よく泣くようになり、赤ちゃん返りのような様子もみられるようになりました。

他の小さい子も、赤ちゃん返り“をしてみたり、”お兄さん“お姉さん“ぶつてみたり、”新しい子が加わった家の落ち着かなさを見せてくれています。

家のメンバーだけでなく、他職員、また他家の子どもたちの大き



光の中で

佐藤家

日々少しづつ暑くなり、夏の気配を感じるこの頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日、小二の英恵が、校内の硬筆展で見事に金賞を頂きました。

英恵は宿題で出された硬筆練習の時から「字が上手に書けるようになりたい」「金賞をとりたい」と言って、真剣に取り組んでいました。納得がいく字が書けるまで何枚も何枚も練習しました。その努力の結果が、今年の金賞につながったのだと思います。去年はどちらかがお過ごしでしょうか。

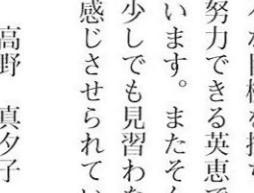
なかなか梅雨入りする様子もなく、暑い日が続いているこの頃。原田家では“熱い”体操ブーム、そしてトランプブームが巻き起こ



原田家日記



和田 優右子



高野 真夕子

それに向かつて努力できる英恵でいてほしいと思います。またそんな英恵の努力を少しでも見習わなければ・・・と感じさせられています。

これからも色々な目標を持ち、それに向かつて努力できる英恵でいてほしいと思います。またそんな英恵の努力を少しでも見習わなければ・・・と感じさせられています。

トランプ大会で分かることは「原田家は負けず嫌いだらけだ」ということ。負けると仮面面にいる者、大声を上げる者、ポーカーフェイスを装いながら鬪志を燃やす者と反応は様々ですが、実際に面白いものです。最も悔しがるのは意外と大人だつたりします。そのくらい全員が真剣勝負なのです。

毎日学校や遊び場など色々な場面で戦っている子どもたちと、それを見守ることしかできない私たち職員であります。このような楽しく熱のこもつた競い合いは、ずっと続けていきたいと思います。

「♪リズム♪」



ですから、体調を崩さないほうが不思議なくらいです。皆様、いかがお過ごしですか。

新年度が始まり早いもので三ヶ月が経とうとしています。それぞれが、それぞれの場所で必死に頑張っているのではないかと思つて います。

そんな彼らが心身共に安心して 寛ぎ、エネルギーを蓄える場にこの家が、そして私がなつていています。

続・光の子らしく

43

岩崎
まり子

「ごめんね。今日も謝ったんでし
たよ。」

れは、どの子ともは厳しくても柔軟です。注意が多くなつてしまい、反省させられることが多いのです。

はたらき

養護人

13

今でも関わっているが、里親委託になつた子どもがいた。十年ほど前のこ
とである。新しい年度が開けて間もな
い頃だつた。ある日、児童相談所の里
親担当福祉司から連絡があつた。ある
子どもを里親委託の方向で調整したい
と言うことだつた。お役人がその方向
で調整したいといえば、そうしますと
いうことである。電話を受けた施設長
は考えられないと拒否した。子どもの
移行には心を遣つてきていた光の子ど
もの家の職員たちは一様に驚いた。
その子は入所して七年にならうとし
ていて、良くも悪くもこの地域に根を
下ろし、小学校中学年になつていての
である。なぜ今、この子なのか？が皆
目見当がつかないのである。

この問い合わせを納得いかないまま繰り返
し問い合わせた。問い合わせ続ける私たちに
彼曰く、「この子に家庭的な暮らしが
させたい。それが私たちの責任だ」
と繰り返した。「家庭的暮らし」って
どんなことを言うのかについての検証
を試みたが見当違いな議論になつてしまつた。何回か話し合いの場を持つた
が、何しろ議論や理念などかみ合わな

いままだつた。「里親委託ありき」それ以外ないのだ。協議の後には虚しさだけが残つたのだつた。

里親や家庭引き取りなどの時、痛感するのだが、児童相談所が関わるとはたらきが遅滯するのだ。それは、児童相談所は子どもの都合では動かないからだと思われる。自分たちの都合を優先させなければ積み重なる日常業務がさばけないからだらう。また、報告し上司の意向などを確認しなければならないこともある。計画通りに事柄を運ばなければならないこともあるだらう。お役人のはたらきの限界でもあるのだが、子どもにとつてはたまらないことである。

光の子どもの家では、出来るだけ子ども們の都合を優先して大人は動くことをいつも確認している。設立の理念でもある「子どものための子どもの施設」にしきつしていくことが、はたらきの第一義なのである。

たとえば、里親委託や家庭引き取りなどの時、子どもの都合を優先すれば学校の学年や学期の切り替え時の長期休みなどを効果的に利用することがあ

枝子が言う見せかけの時期をやり過ぐるのである。この子とここで、やつては多くの場合追いつかないことがある。児童相談所の都合や判断がある程度可能になるのである。ここで児童相談所は多くの場合追いつかないことがある。児童相談所の都合や判断を待っているのである。そこで児童相談所と夏休みが終わってしまうのだ。児童相談所の都合より子どもの都合を優先するのである。その時期を逃すとまた数ヶ月かかる、できるだけ長い時期が必要な場合では次の夏休みまで待たなければならぬのである。人の思いや熱意はそう長く持たない。そのときでなければ不能になるようなことは自明なのだ。だから私たちには児童相談所を待たずに手順を進めることがある。そうすると、心外だ、裏切りだと怒るのが児童相談所の常でもある。

ところで、移行を進めようとした児童相談所の里親担当は強引で執拗だった。いわゆる能吏といえ得る働き手だった。厚労省が里親委託を強化せよ、という方針を重ね重ね示していたことも、里親担当氏の背景に色濃くあつたと思われた。

や、児童虐待の激発などによって、親子分離をした子どもたちの受け入れ施設が足りない状況などが厚労省の方針にはあつたのである。



と相づちをうちつつ途方に暮れていました。
　彼女に対し、充分なエネルギーを補充できるような関わりが出来

今“が”未来“につながつて
いくこと、思いは相手に伝わること
と、無駄なことなど一つもないこと、
それを信じ続けられるよう努力しながら、子どもたちとの関係を紡いでいきたいと思っています

「何で駄目だつてことも、やられたら嫌な気持ちになるつてことも、わかつて、やつちやうんだろうねえ・・・。」

「つまり子さんは、丘実ちゃんとずっと一緒にいて、丘実ちゃんのいいところもたくさん知っているから大丈夫だけど、学校の人たちは学校にいるときだけの丘実ちゃんしか知らないんだから、学校で『こわい丘実ちゃん』だと丘実ちゃんがかわいそうなんだよ。」

話というか、気持ちは十分伝わる（と信じている私なのですが）

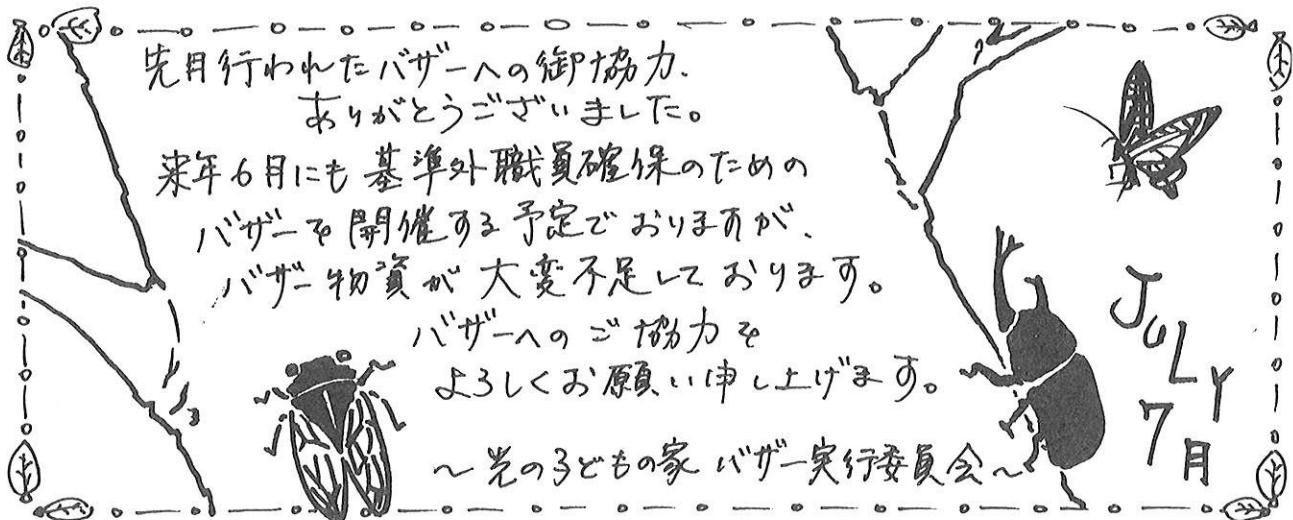
の懇談会から帰ってきた私のところにすすと寄り、「ごめんね。今日も謝ったんでしょ?」と言つて来ました。

An illustration of a cluster of iris flowers, showing several flowers in various stages of bloom with their characteristic three-leafed flower spikes and long, blade-like leaves.

形成することである。

る。この間に里親先や家族などが当該の子どもとしばらく暮らししてみることを勧めるのである。そこでかなりの間暮らしを継続すれば、ゲスト気分から次第に通常の暮らしに近づく。岩崎美枝子が言う見せかけの時期をやり過ごすのである。この子とここで、やっていけそうかどうかの判断がある程度可能になるのである。ここで児童相談所は多くの場合追いつかないことがある。児童相談所の都合や判断を待っていると夏休みが終わってしまうのだ。児相の都合より子どもの都合を優先するのである。その時期を逃すとまた数ヶ月かかる、できるだけ長い時期が必要な場合は次の夏休みまで待たなければならぬ。人の思いや熱意はそう長く持たない。そのときでなければ不能になるようことがある。そうすると、心外だ、裏うなことは自明なのだ。だから私たちは児童相談所を待たずに手順を進めることがある。そうすると、自然では切りだと怒るのが児童相談所の常でもあります。

この里親担当は、燃えていた。燃えていたにしても計画的ではなかつた。まず何よりも、どうして今なのか、である。里親委託などは子どもが小さいうちにすべきことである。できるだけ幼い・・・誰からも愛され、抱っこできる間が里親委託の大原則なのだ。それが二歳で入所して、約七年が過ぎようとしていた九歳の時の、突然の話である。幼稚園入園前とか、入所後二年以内、里親委託の適齢期だと経験的にそう考えてきた。抱っこされても不自然ではない大きさや重さのうちに抱っこができるだけしながら愛着関係を



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2010年4月1日~2010年5月末日

2010年4月現在

幼児6名 小学生13名 中学生9名 高校生6名 措置外5名 計39名

5日 進級進学祝い 子どもたちそれぞれに新たな進級進学を迎える 真新しいランドセルを背負った北斗のかわいらしい姿と高校3年となりそれぞれ進路を決定する年度を迎えた誠と美季の姿 これからの1年をそれぞれの場所で頑張れるように激励

8日 小学校 中学校 高校それぞれ入学式

15日 5年前のカリフォルニア大からのインターン生ニコールが家族と共に来訪 昨年5月に生まれたばかりのディーン君を連れて 久しぶりの再会をみんなで喜ぶ つながっていく豊かな関係に感謝

16日 およそ100の農家の方々が加盟している古河の農友会より光の子どもの家へ野菜の献品を継続的にして下さるというお申し出を頂く 心より感謝

5月

4日 21年度子どもまつり「青春ワンダフル」 高校生が中心となって企画から全て子どもたちが指揮を執る子どもまつりの為に来て下さったドラム集団「宝道(藤井修主宰)」の方々の力強いジャンベの演奏 子どもたちにも楽しく教えて下さり盛況 心より感謝

6日 中学校との連絡会 入学したばかりの子どもたちの様子を先生方から伺う 新たな場所で励む子どもたちの頑張りを確認 感謝

11日 幼稚園との連絡会 今年度は多くの子どもたちがお世話になっている 貴重な機会をいただき感謝

14日 赤十字奉仕団による除草作業 お昼は光の子どもの家後援会の皆様がおいしいうどんを打って下さる 感謝

15日 聖学院大学ワーク

22日 第92回光の子どもの家理事会

《4・5月の物品ご寄贈者》

川越たかしなキリスト教会 神田美智子 岡村雅一 岡村美智子 増田文明 小山田貴子 竹内阿久利 豊国道江 後藤利子 塩見幸恵 杉山和俊 古川景子 渋谷澪 ポケット洋品店 あづさわ化粧品店 横村スミ子 松本成子 落合美佐子 坂本和加子 新井せつ子 米盛あゆみ 伊村幸子 木村澄子 梓沢あづさ 佐保浩代 松本明子 志賀智江 小山田貴子 増田文明 中華料理福樂 東大宮教会 吉野久美子 鳥越宏子 片山和恵 山田榮子 石川順江 志賀智江 渋井みさ子 加藤晶子 日本聾話学校幼稚部 黒岩明日香 大川誠子 三国コカコーラボトリング株式会社 高谷幸子 谷本和子 他多数の御各位様

★多くの方々にお支え頂いております。心より感謝申し上げます。(洋)

反 射 光

☆真夏の到来に備えて予行練習でもしているかのよう暑い日が飛び石で襲ってきます☆雨の月曜日は子どもたちも憂鬱な顔ですが六月に入つて学校ではプールが始まり子どもたちにとっては暑い日も大歓迎のようですが☆六月五日には基準外職員確保の為のバザーが光の子どもの家園にて行われました☆当日の天気が心配されましたが晴天☆多数のボランティアの方々また多くのバザー物品をお送り下さった方々のご協力で過去最高の売り上げを得ることができました☆心から感謝申し上げます☆いいよい子どもたちが最も著しい成長を遂げる季節を迎えます☆長いよう短い子どもたちのゴールデンタイムである夏休みをどう過ごすか☆今年も様々な方々のご協力により山登りや海水浴など貴重な機会が持っています☆ある子どもはお盆の間自分の家に帰りまたある子どもはそれを複雑な心境で見送る☆家に帰った子どもたちもこちらに戻ってきた時には光の子どもの家で過ごした子どもたちの心に寄り添えるようこそ思ふ事も☆暮らしの中にそれぞれの家族の色が濃く滲んでくる季節でもあります☆私たちはそれぞれの子どもたちの心に寄り添えるようにこの夏休みを前傾姿勢で迎えよう☆と思ふながらも力及ばぬ私たちです☆皆様のご理解とご協力よろしくお願い申し上げます☆

(洋)